



公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

2026 年 8 月 17 日

体験支援 現場レポート

当財団では 2025 年 9 月から、埼玉県下の生活にお困りの子育て世帯を対象にした「体験の機会の場の提供」を開始いたしました。周りの環境によって子どもが得られる体験に格差が生じる体験格差。学校外での体験をほとんどできていない子どもも存在し、体験の有無が、子ども達の将来に私たちが想像する以上に深刻な影響を与えているのかもしれません。日常とは違う体験が、子ども達に自信や可能性を感じる機会となり、様々な体験活動を通して、生きていく上で重要な内面的な能力を育むことができきっかけになるような、子ども達がワクワクするような体験提供を支援してまいります。





公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

親子でランチ&コンサート 2026 夏休み

夏休みに、子どもたちへ「食」と「音楽」の特別な一日を

2026 年 8 月 17 日、ヤオコー子ども支援財団の体験支援として、「親子でランチ&コンサート 2026 夏休み」を開催しました。

今回は、埼玉県内の子ども食堂やフードパントリーを通じて、親子の皆さんをご招待。バスに乗って出かけ、みんなでランチを楽しみ、その後はウェスタ川越のヤオコー小ホールで、ピアノ・ヴァイオリン・チェロによる生演奏のクラシックコンサートを鑑賞しました。夏休みの一日を、いつもとは少し違う特別な時間として過ごしていただきました。



まずは、みんなでランチ！

今回訪れたレストランでは、パンとドリンクが食べ放題で、サラダやスープ、パスタなどをいただきました。



公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

参加した子ども食堂さんのブログでは、「小学生たちの食欲はすごい!」と、子どもたちが美味しそうに食事を楽しむ様子が紹介されていました。

なかでも印象的だったのが、ある親子のこんなエピソード。お母さんのボンゴレをほとんど食べてしまった子どもが、最後に貝を1粒だけお母さんに残してあげたそうです。「美味しかったからたくさん食べたい」という気持ちと、「お母さんにも食べてほしい」という優しさ。食卓を囲むからこそ見られる、微笑ましい一場面でした。



いよいよ、クラシックコンサートへ

食事の後は、ウェスタ川越のヤオコー小ホールへ。木目の美しいホールで、ピアノ・ヴァイオリン・チェロによる「クラシックサマーコンサート」を鑑賞しました。演奏は、子どもたちにも親しみのあるディズニーやジブリの曲からスタート。

そして、会場を大いに盛り上げたのが「八木節」でした。

足音や「は!は!は!は!」という威勢のよい掛け声も加わり、ピアノ・ヴァイオリン・チェロの三重奏で奏でられる八木節に、子どもたちも大喜び。



公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

参加団体の方からも、「まさかクラシックコンサートで、ピアノ・バイオリン・チェロの三重奏で『八木節』を聴くとは！意外性と完成度の高さと美しさに聞き惚れました。」との感想をいただきました。

「クラシックには興味がない」と思っていた子が……

参加者へのアンケートでは、嬉しい声がたくさん寄せられました。

なかでも印象的だったのが、「音楽に興味がないと思っていた息子も、曲がはじまると興味津々で聞いている、新しい発見ができました。」という保護者の声。

また、「参加前はクラシックコンサートには興味がないと言っていたのですが、コンサート中や帰宅後も楽しく口ずさんだり、リズムと一緒に取ってみたりしました。」という声もありました。

知っている曲が流れると、「これ知ってるー！」と声をあげたり、音楽に合わせて身体を揺らしたり、歌ったり踊ったり。

演奏が始まると、それまで動いていた子どもがぴたりと動きを止め、集中して聴いていたというエピソードもありました。音楽との出会いが、子どもたちの新しい興味や可能性につながったことを感じます。

「また行きたい！」子どもたちの新しい一面

今回の体験では、音楽だけではなく、子どもたち同士の交流も生まれました。最初は緊張していた子どもが、帰る頃には別の家庭の子どもと話したり、手をつないだりする姿も見られました。

保護者からは、「人が集まる場に行きたがらないのですが、『また行きたい』との言葉が見られ嬉しかったです。」という声も。

また、引率者の方からは、「『また遊ぼうね』と子どもたちに言われたので、一緒に過ごす時間で距離がぐっと近づいたと感じました。」との声も寄せられました。普段とは違う場所で、普段とは違う仲間と過ごす。そんな経験が、子どもたちの世界を少しずつ広げていきます。



公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

「今年は夏休みの思い出を話せるよ」

今回、私たちの心に特に残った子どもの言葉があります。

「新学期に友人や先生に夏休みの思い出を聞かれるのが嫌だったけど、今年はバスに乗ってレストランで外食して、生演奏のコンサートをみてきたと話ができるよ。」

バスに乗る。みんなでレストランに行く。おいしい食事をする。生演奏を聴く。友達と過ごす。そして、「楽しかった」と誰かに話せる思い出になる。今回の一日は、子どもたちにとって、そんな大切な夏休みの思い出になりました。

「みんなと一緒に食べるのが楽しかった」

今回の体験を通して、私たちが改めて考えさせられる声もありました。

支援団体の引率者の方から、「夏休みはお昼ごはんを食べない子や、ひとりで食べている子がほとんどなので、みんなと一緒に食べるのが楽しかったと言っていました。」というお話を伺いました。

また、「夏休みにどこにも行けないこどもがほとんどです。」という声もありました。

今回のランチは、単に「美味しい食事をする」というだけではなく、みんなで同じテーブルを囲み、会話をしながら食事をするという時間そのものが、子どもたちにとって大切な経験になったのだと思います。

子どもたちに「体験」を届けるということ

アンケートでは、回答いただいた全員が「満足」以上と回答しました。

「普段は体験できないクラシックに触れることができた」

「新しい世界を広げるのに役立った」

「子どもの興味を決めつけず、いろいろなことにチャレンジさせてあげたいと思った」

「親子でコミュニケーションを取る大切さを改めて感じた」



公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

など、たくさんの声が寄せられました。

一方で、中間支援団体からは、「特別な体験や芸術に触れる機会は、予算がないとできません。ボランティア団体なので、余裕がなく、してあげたくてもできないのが現状です。」という声もいただいています。

子どもたちにとって、外出すること、外食すること、芸術に触れること、新しい人と出会うこと。その一つひとつが、決して当たり前ではない家庭もあります。だからこそ、ヤオコー子ども支援財団では、食支援だけでなく、子どもたちがさまざまな世界に触れられる「体験支援」を大切にしています。

音楽は、子どもたちの心を動かす

今回、子ども食堂さんのブログには、こんな言葉がありました。

「音楽に触れる体験は、魂がよろこびます。」 私たちも、子どもたちの表情や、演奏を聴く姿、帰り道の笑顔を見て、まさにその言葉のとおりだと感じました。

「楽しかった!」「また行きたい!」「家に帰って弾いてみたい!」

そんな子どもたちの言葉が、今回の一日が素敵な時間だったことを何より物語っています。

素敵な時間をありがとうございました

今回、素晴らしい演奏を届けてくださった佐々木崇さん・長岡聡季さん・森山涼介さんをはじめ、開催にご協力いただいた皆さま、そして参加してくださった子どもたちとご家族の皆さまに、心より感謝申し上げます。

子どもたちにとって、食事も、音楽も、友達との時間も、すべてが心に残る夏休みの一日となりました。

ヤオコー子ども支援財団は、これからも子どもたちが「やってみたい」「行ってみたい」「聴いてみたい」と思うことに会い、新しい世界を知ることができるよう、さまざまな体験の機会を届けていきます。

子どもたちの夏休みに、心に残る一日を。
